



1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)札幌市西区発寒9条12丁目計画 新築工事	階数	地上2階
建設地	札幌市西区発寒9条12丁目675番3の内	構造	S造
用途地域	準工業地域	平均居住人員	200 人
建物用途	物販店	年間使用時間	3,650 時間/年(想定値)
竣工年	2020年2月 予定	評価の段階	実施設計段階評価
敷地面積	6,630 m <sup>2</sup>	評価の実施日	2019年11月20日
建築面積	4,599 m <sup>2</sup>	作成者	
延床面積	4,331 m <sup>2</sup>	確認日	2019/11.22
		確認者	

「配慮シート」に  
外観パースを張り付けて下さい。

### 2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.6 ★★★★★☆ **A**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%  
②建築物の取組み 69%  
③上記②以外のオンサイト手法 69%  
④上記オフサイト手法 69%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

Q2 サービス性能

Q1 室内環境

Q3 室外環境 (敷地内)

LR1 エネルギー

LR2 資源・マテリアル

LR3 敷地外環境

2-4 一次エネルギー消費量の評価  
建物全体の[BEE][BEIm]= 0.64

### 2-5 中項目の評価 (バーチャート)

**Q 環境品質** Qのスコア = 3.0

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.1

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.4

#### Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.5

**LR 環境負荷低減性** LRのスコア = 3.7

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.4

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.2

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.4

3 設計上の配慮事項	
<b>総合</b> 前側の道路から建物を後退させ圧迫感の減を考慮した。	<b>A 省エネルギー</b> 建物は矩形を意識し省エネルギーに努めた。
<b>B 省資源等</b> 使用する建材は一般普及品を使用し、省資源に努めた。	<b>C 緑化</b> 札幌市で定める緑化率以上の緑化をする。
	<b>D 雪処理</b> 駐車場の雪は随時搬出する。

4 ほかの認証・評価制度の利用	
(財)建築環境・省エネルギー機構のCASBEE認証	なし
BELS認証	なし
LEED認証	なし
上記以外の認証・評価制度の利用	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

CASBEE札幌2016(ver.1.4)

(仮称)札幌市西区第9条12丁目計画 新築工事

■使用評価マニュアル: CASBEE\_Sapporo2016v1.0

欄に数値またはコメントを記入 ■評価ソフト: CASBEE札幌2016 (ver.1.4)

スコアシート		実施設計段階		建物全体-共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点 評価項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み 係数	評価点	重み 係数		
Q 建築物の環境品質								3.0
Q1 室内環境								3.1
1 音環境			3.0	0.15				3.0
1.1 室内騒音レベル			3.0	0.40				
1.2 遮音			3.0	0.40				
1 開口部遮音性能			3.0	1.00				
2 界壁遮音性能								
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)								
4 界床遮音性能(重量衝撃源)								
1.3 吸音			3.0	0.20				
2 温熱環境			3.0	0.35				3.0
2.1 室温制御			3.0	0.50				
1 室温			3.0	0.50				
2 外皮性能	省エネ		3.0	0.17				
3 ゾーン別制御性			3.0	0.33				
2.2 湿度制御			3.0	0.20				
2.3 空調方式			3.0	0.30				
3 光・視環境			3.0	0.25				3.0
3.1 昼光利用			3.0	0.50				
1 昼光率								
2 方位別開口								
3 昼光利用設備	省エネ		3.0	1.00				
3.2 グレア対策								
1 昼光制御	省エネ							
2 映り込み対策								
3.3 照度								
3.4 照明制御			3.0	0.50				
4 空気質環境			3.6	0.25				3.6
4.1 発生源対策			4.0	0.50				
1 化学汚染物質		F☆☆☆☆建材の採用	4.0	1.00				
4.2 換気			3.5	0.30				
1 換気量			3.0	0.50				
2 自然換気性能								
3 取り入れ外気への配慮		給気ガラリと換気ガラリは6m以上離隔	4.0	0.50				
4.3 運用管理			3.0	0.20				
1 CO <sub>2</sub> の監視			1.0	0.50				
2 喫煙の制御		全面禁煙	5.0	0.50				

Q2 サービス性能				0.30	-	-	3.4
<b>1 機能性</b>				<b>3.6</b>	0.40	-	3.6
<b>1.1 機能性・使いやすさ</b>				<b>3.0</b>	0.40	-	
1	広さ・収納性				-	-	
2	高度情報通信設備対応				-	-	
3	バリアフリー計画			3.0	1.00	-	
<b>1.2 心理性・快適性</b>				<b>3.6</b>	0.30	-	
1	広さ感・景観 (天井高)		従業員室の天井高さ2.5mとした	5.0	0.33	-	
2	リフレッシュスペース			3.0	0.33	-	
3	内装計画			3.0	0.33	-	
<b>1.3 維持管理</b>				<b>4.5</b>	0.30	-	
1	維持管理に配慮した設計		維持管理に適した計画を提案	4.0	0.50	-	
2	維持管理用機能の確保		維持管理機能に配慮した設計	5.0	0.50	-	
<b>2 耐用性・信頼性</b>				<b>3.2</b>	0.30	-	3.2
<b>2.1 耐震・免震・制震・制振</b>				<b>3.0</b>	0.50	-	
1	耐震性(建物のこわれにくさ)			3.0	0.80	-	
2	免震・制震・制振性能			3.0	0.20	-	
<b>2.2 部品・部材の耐用年数</b>				<b>3.6</b>	0.30	-	
1	躯体材料の耐用年数			3.0	0.20	-	
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	省資源	金属サイディング 40年	5.0	0.20	-	
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	省資源	カーペット、クロス 20年	5.0	0.10	-	
4	空調換気ダクトの更新必要間隔	省資源		3.0	0.10	-	
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	省資源		3.0	0.20	-	
6	主要設備機器の更新必要間隔	省資源		3.0	0.20	-	
<b>2.4 信頼性</b>				<b>3.4</b>	0.20	-	
1	空調・換気設備		変風量方式による不可対応を行っている	5.0	0.20	-	
2	給排水・衛生設備			3.0	0.20	-	
3	電気設備			3.0	0.20	-	
4	機械・配管支持方法			3.0	0.20	-	
5	通信・情報設備			3.0	0.20	-	

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>3.3</b>	0.30	-	-	3.3
<b>3.1 空間のゆとり</b>			<b>4.2</b>	0.30	-	-	
1 階高のゆとり		階高5.65mを確保している	5.0	0.60	-	-	
2 空間の形状・自由さ			3.0	0.40	-	-	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>			<b>3.0</b>	0.30	-	-	
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1 空調配管の更新性			3.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性			3.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性			3.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	0.20	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	0.30	-	-	2.5
<b>1 生物環境の保全と創出</b>	緑化		2.0	0.30	-	-	2.0
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>	緑化		3.0	0.40	-	-	3.0
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			2.5	0.30	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	雪処理		3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上	省資源 緑化		2.0	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>				-	-	-	3.7
<b>LR1 エネルギー</b>			-	0.40	-	-	4.4
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>	省エネ	BPIM=0.90	5.0	0.20	-	-	5.0
<b>2 自然エネルギー利用</b>	省エネ		3.0	0.10	-	-	3.0
<b>3 設備システムの高効率化</b>	省エネ	[BE][BEIm] = 0.64 -	5.0	0.50	-	-	5.0
<b>4 効率的運用</b>			3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	
4.1 モニタリング	省エネ		3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制	省エネ		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価				-	-	-	
4.1 モニタリング	省エネ			-	-	-	
4.2 運用管理体制	省エネ			-	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	0.30	-	-	3.2
<b>1 水資源保護</b>			3.0	0.20	-	-	3.0
1.1 節水			3.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30	-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			3.5	0.60	-	-	3.5
2.1 材料使用量の削減	省資源		3.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用	省資源		3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	省資源	-	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	省資源	ビニール系床材	4.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材	省資源		2.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	省資源	OAの採用	5.0	0.20	-	-	

<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			<b>2.5</b>	0.20	-	-	2.5
<b>3.1 有害物質を含まない材料の使用</b>			<b>3.0</b>	0.30	-	-	
<b>3.2 フロン・ハロンの回避</b>			<b>2.3</b>	0.70	-	-	
1 消火剤	省資源		2.0	0.33	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)	省資源		3.0	0.33	-	-	
3 冷媒	省資源		2.0	0.33	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	0.30	-	-	3.4
<b>1 地球温暖化への配慮</b>	省資源	ライフサイクルCO2削減量の低下に努めた設計	<b>4.2</b>	0.33	-	-	4.2
<b>2 地域環境への配慮</b>			<b>3.2</b>	0.33	-	-	3.2
<b>2.1 大気汚染防止</b>	省資源		<b>3.0</b>	0.25	-	-	
<b>2.2 温熱環境悪化の改善</b>	省資源 熱化 蓄熱		<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>2.3 地域インフラへの負荷抑制</b>			<b>4.0</b>	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減	省資源		3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制		札幌市の車附置義務条例を満たして、駐車場を確保	5.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制	省資源 雪処理	適切なゴミ置き場の確保	5.0	0.25	-	-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>			<b>3.0</b>	0.33	-	-	3.0
<b>3.1 騒音・振動・悪臭の防止</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1 騒音			3.0	0.33	-	-	
2 振動			3.0	0.33	-	-	
3 悪臭			3.0	0.33	-	-	
<b>3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1 風害の抑制			3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制				-	-	-	
3 日照障害の抑制			3.0	0.30	-	-	
<b>3.3 光害の抑制</b>			<b>3.0</b>	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			3.0	0.70	-	-	
2 昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	



■使用評価マニュアル: CASBEE\_Sapporo2016v1.0

■使用評価ソフト: CASBEE札幌2016(ver.1.4)

<b>1 建物概要</b>		BEE	1.6	BEEランク	A
建物名称	(仮称)札幌市西区発寒9条12丁目計画 新築工事				
建物用途	物販店				
延床面積	4,331.4 m <sup>2</sup>				

<b>2 重点項目への取り組み</b>		<b>レーダーチャート</b>	
地球温暖化対策	最重点項目 <b>省エネルギー</b>	★★★★☆	<p>省エネルギー性能: 4.0 省資源等への取組: 3.0 緑化への取組: 2.0 雪処理: 3.0</p>
	省資源等	★★★☆☆	
	緑化	★★☆☆☆	
	雪処理	★★★★☆	

★1=スコア(最低点~最高点)20%以下  
★2=スコア(最低点~最高点)20%~40%以下  
★3=スコア(最低点~最高点)40%~60%以下  
★4=スコア(最低点~最高点)60%~80%以下  
★5=スコア(最低点~最高点)80%以上

<b>3. 重点項目のCASBEEスコア</b>					
<b>A 省エネルギー</b> ( 最高点 23.1 最低点 7.2 )		<b>合計</b> <b>19.5点</b> /23.1点			
Q1 温熱環境	スコア	0.4 /0.6	LR1 建物外皮の熱負荷抑制	スコア	4.0 /4.0
Q1 光・視環境	スコア	1.5 /2.5	LR1 自然エネルギー利用	スコア	1.2 /2.0
			LR1 設備システムの高効率化	スコア	10.0 /10.0
			LR1 効率的運用	スコア	2.4 /4.0
<b>B 省資源等</b> ( 最高点 23.6 最低点 7.6 )		<b>合計</b> <b>16.0点</b> /23.6点			
Q2 耐用性・信頼性	スコア	0.8 /1.1	LR2 非再生性資源の使用量削減	スコア	6.3 /9.0
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	0.9 /2.3	LR2 汚染物質含有材料の使用回避	スコア	1.0 /1.8
			LR3 地球温暖化への配慮	スコア	4.2 /5.0
			LR3 地域環境への配慮	スコア	2.8 /4.4
<b>C 緑化</b> ( 最高点 15.3 最低点 3.1 )		<b>合計</b> <b>7.8点</b> /15.3点			
Q3 生物環境の保全と創出	スコア	1.8 /4.5	LR3 地域環境への配慮	スコア	1.5 /2.5
Q3 まちなみ・景観への配慮	スコア	3.6 /6.0			
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	0.9 /2.3			
<b>D 雪処理</b> ( 最高点 3.0 最低点 0 )		<b>合計</b> <b>1.0点</b> /3.0点			
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	0.0 /1.0	LR3 地域環境への配慮	スコア	1.0 /2.0

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■重点項目の**最高**点は、各評価項目で**レベル5**で評価された場合の点数  
 ■重点項目の**最低**点は、各評価項目で**レベル1**で評価された場合の点数